

# 研究者育成側からの 問題提示

---

2022年度 日本農業経済学会

ミニワークショップ

研究者の現在と将来

－大学での育成と社会での仕事を考える－

近藤 巧（北海道大学）

# 大学院の構成

---

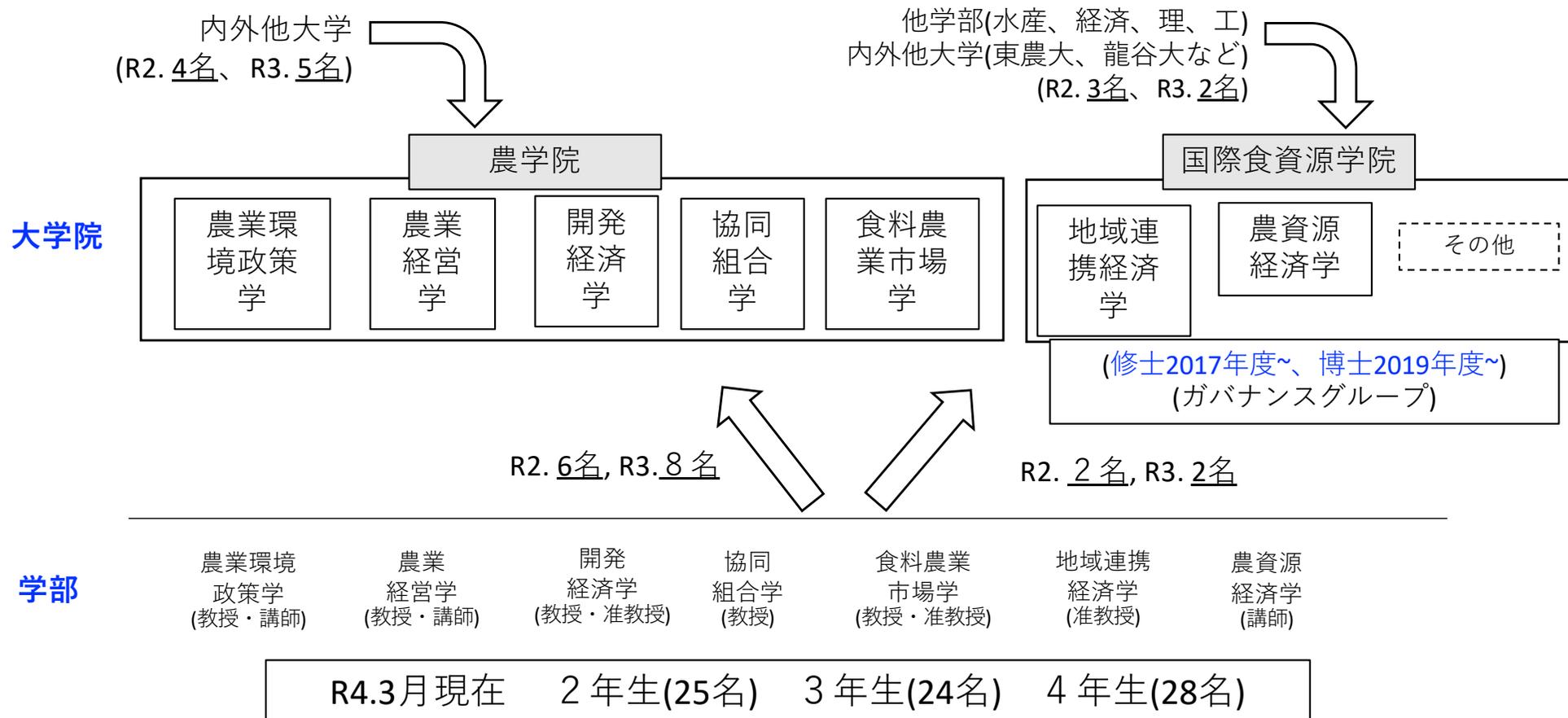
## □農学院

- 5研究室（農政、経営、開発、組合、市場）
- 4専攻から1専攻3コース制へ（2019年）
  - 農業経済は共生基盤学専攻から生産フロンティアコースの農業経済学ユニットへ
  - 農学専攻の定員はマスター136名、ドクター36名

## □国際食資源学院（2017年から）

- ガバナンス部門
- 農業経済学科スタッフの2研究室＋他学部

# 大学院進学の概況



# 大学院の在籍数(2020、2021年度)

	2020年度							2021年度						
	農学院			食資源			計	農学院			食資源			計
	一般	留学生	計	一般	留学生	計		一般	留学生	計	一般	留学生	計	
M1	8	2	10	4	1	5	15	12	1	13	4		4	17
M2	11	3	14	2		2	16	6	4	10	4	1	5	15
修士計	19	5	24	6	1	7	31	18	5	23	8	1	9	32
D1	2	2	4				4	3		3				3
D2	1	1	2		1	1	3	2	1	3				3
D3	0	2	2				2	1	1	2		1	1	3
D4以上	10	4	14				14	9	4	13				13
研究員・研究生	5	2	7				7	6	3	9				9
博士計	18	11	29	0	1	1	30	21	9	30	0	1	1	31
院生合計	37	16	53	6	2	8	61	39	14	53	8	2	10	63

# 修士学生修了者の推移 (供給ベース、農学院)

年	計	うち留学生	うち女性
2011	10	2	6
2012	11	2	2
2013	13	2	5
2014	11	2	4
2015	8	3	4
2016	8	1	3
2017	5	1	2
2018	8	4	3
2019	11	4	2
2020	12	1	4
合計	97	22	35

# 博士後期課程修了者の動向 (社会人と留学生の扱い)

## □博士後期課程進学者の多様化

- 投資としての教育、消費としての教育

## □社会人

- 博士の学位を必要とするタイプ (研究職などでありながら学位なしのケース)
- 定年間近高齢タイプ
  - 長期履修制度 (3年分の授業料で6年間在籍可)

## □留学生

- 就職活動に学位が必要なタイプ
- 大学の講師・農業省の公務員 (ベトナム、インドネシア、韓国) などすでに職についているタイプ

## □2つのタイプ

- 博士号取得 → 就職
- 就職 → 博士号取得 : 留学生にこのパターンが多い (留学生で社会人)

## □留学生、社会人は受け入れ教員の考えによるところ大→変動要因

## □入学時に30歳以下の動態をみってみる

## □単位取得退学 → 退学後1年間は課程博士と同じ条件で学位申請可

# 博士後期課程修了者の動態 (2022.3.時点)

年	社会人	博士進 学時に 概ね 30歳 以下	修了者 計	それぞれ内数			
				博士取 得者	女性	研究職 として 勤務	留学生
2011	1	3	4	4		2	
2012	2	1	3	2		2	1
2013		2	2	1		2	
2014	2	2	4	3	1	3	3
2015	4	3	7	7	1	2	2
2016	2	3	5	5	1	3	3
2017		3	3	3	1	3	1
2018	2	3	5	4	2	1	2
2019	3	4	6	5	2	2	4
2020	2	2	3	2	2	2	1
計	18	26	42*	36	10	22	17
割合	41%	59%		86%	24%	52%	40%

\*社会人かつ30歳以下で2名あり。

キャリアの不安なし

就職不安あり：若手26名について

# 若手 26 名について

	研究職	非研究職	計
学位取得	18	3	21
学位取得せず	2	3	5
	20	6	26

学位取得者 21 名中 3 名：留学生で自国の行政職などへ

学位取得者 21 名中 18 名：研究職へ

## 18名の内訳

留学生	11
日本人	7
	18

→自国の大学教員など (韓国、中国、インドネシア、ベトナム)  
→取得後1-2年以内に全員国内の大学へ  
(帯広畜産大学、酪農学園大学、富士大学、秋田県立大学、名寄市立大学)

地域の大学へ人材を供給

# 雇用をめぐる問題など

---

- 大学の研究予算の先細りから、大学教員ポストは増えにくい状況
  - 博士号取得後の任期付研究者や特任助教など継続性が保証されない不安定な有期雇用しか提供されない
  
- 博士課程に進学ということ
  - 奨学金（生活資金）を獲得できるか
  - 3年間で博士論文を完成できるか
  - 学位取得後の就職先はあるのか
  - 研究者として自立できるか

# 論文執筆をめぐる状況

---

- 研究者としての評価、就職は論文数で評価
- 博士後期課程に入学後、3年で学位を取得
  - 査読付学会誌の論文掲載が必須
  - 学会報告論文集の増加：留学生対応、成果主義、学問領域の拡大（環境、地域、国際）など

# 研究の面白さを求めて

## □研究のプロセスを楽しむ

- 知識の伝達→物事をアカデミック的に考えるとは？
- 議論の組み立て、研究の組み立て

## □院生の研究活動を支える5～8名くらいの研究会や勉強会を大学を超えて組織

- カリキュラムの外になってしまう

## □学会報告論文の活用：学会誌論文の質の低下を回避しつつ、院生を育てる仕組みとは？

# まとめ

---

## □研究予算の先細り、継続性の問題

- 業績（＝論文数）が予算確保のカギとなる  
→就職においても論文数が重視される
- 博士課程修了直後の就職が不安定

## □在学中の経済的支援は整いつつある状況

- 博士課程進学に対するネガティブな印象を払拭する可能性はあるか？

## □研究の面白さを求める体制をいかに作るか

- 教育と研究の場としての大学院
- 大学を超えた研究会など

# (補足) 在学中の経済的支援

---

## □学振特別研究員

## □民間研究所での非常勤職員

- 博士論文とのリンクがあると好循環

## □民間企業、同窓会などによる支援

## □大学独自の支援制度 (DX博士人材フェローシップ、アンビシャス博士人材フェローシップ)

- R4年度より開始
- 研究専念支援金 (生活費) + 研究費